



エコポイントに続け!

大手サッシメーカーの住宅エコポイントの動きに合わせて、中小の建具・サッシ屋の間でも省エネ建具の販売の機運が高まっている。

6月から本格発売を開始するのは「インチェンジeco 障子」。格子の中に障子紙ではなくポリカーボネートを使用した製品。4月から全

国建具組合連合会・東京建具協同組合の推奨品になっている。

製造・販売元は東京都八王子市の株式会社。従業員十数命の一級建築士事務所で、サッシ販売のほか、八王子市鎌水に木工場で建具の製造も行っている。

<http://www.kanbe-inc.com>

次期全国大会 開催地を岐阜に決定

全国建具組合連合会(上中節彦会長)は5月21日、東京都千代田区の総評会館にて平成22年度第一回常任理事会を開催。全国の常任理事が集い、6月に行われる全国建具・秋田常任理事会は谷口泰幸東海ブロック長の司会で進められ、高橋俊郎四国ブロック長の開会の辞に続き

上中会長が挨拶。秋田大会の準備状況について、小松俊悦実行委員長は「可能な限り出品の協力をお願いしたい。17日より講演会を実施するので、業者大会の前日から秋田に来てもらいたい。多くの組合員の参加をお願いする」と説明。各県連に秋田大会への参加を呼びかけた。

内窓の認定を新設

財団法人ベターリビングは優良住宅部材「BL・bs部材」における「環境の保全に寄与する特徴」を持った優良住宅部材として、新たに「内窓」の認定基準を制定。今後において認定品の募集を行う。優良住宅部材としての「内窓」の認定基準や評価基準は、①断熱性、②情報提供、③適切な施工の担保の3ポイント。断熱性では、外窓と合わせて二重窓としたガラス仕様(単板ガラスまたは複層ガラス)とした上で、内窓を設置した際の熱貫流抵抗の増加分によってランクを3段階に分類。情報提供の面では、適合する熱貫流抵抗の増加分のランク、及び外窓のガラス仕様によって省エネ基準に適合することができると地域区分を明確にし、カタログなどで告知することを要求している。①既存窓及び取り付け下地の劣化状況を診断できる体制の整備、②施工時の騒音及び粉塵の発生を抑える措置、③取り付け可能な下地の種類及び取り付け方法、④額縁などを増設する場合の額縁などの強度、⑤内窓の取り付け作業が原則一日で完了する。

Machining JP 新産業メディア CORE マシニングコア

メールマガジン (2010年6月号 Vol.1)

(発行所) (株)エルエルアイ出版

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-27-4 靴下会館7階

TEL 03-3868-0738 FAX 03-5809-3650

<http://www.lli-publishing.com/>

グルーラインが見えない 新次元の縁貼加工を体感

世界の木材加工技術をリードするドイツ・ホマッググループの日本法人・ホマッグジャパン(株)(本社・大阪府東大阪市島之内2-4-15、安居実社長)は去る4月22日から24日までの3日間、東大阪の本社・ショールームで恒例のハウスメッセを開催した。ホマッググループ創立50周年を記念する今回のハウスメッセではCNC技術を始めとする技術革新を体感できる最新ラインアップ8機

種を展示、実演するとともに、縁貼加工に革命をもたらすレーザーテックについて特別セミナーを開催するなど同社が提供する最新技術の全体像を紹介した。

今回のハウスメッセではエッジバンディング(縁貼加工)を革新する技術として注目を集めているレーザーテック(LaserTec)に関してセミナーを実施し、基本原理から加工の詳細、特徴について包括的に説明するとともに、

展示会場の実機(ホマッグ社製レーザー縁貼機・KAL330/8/A3L)を使用してグルー(接着剤)を使わない新次元の縁貼加工、最高の仕上がり品質を提案した。50年の愛顧に感謝する記念キャンペーンを実施中で記念モデル12台、関連部品を特別価格で提供するとともに、技術面のバックアップを充実する定期点検サービスを開始するなどサービス面の充実にも注力している。

テクノドムス(イタリア・リミニ市) 2倍の出展者、1.5倍の動員数

木材加工技術の新しい産業見本市・テクノドムスは去る4月20日、リミニ見本市会場で開幕し4月24日まで4日間の会期を終えた。

今回は前回(2009年)比2倍強の300社が同じく1.5倍強の実展示面積4万2千dを出展し、会期中に3万人強が来場して木造建築と木製内装材の木材加工技術

の最新動向に触れた。

テクノドムス(Technodomus)は昨年(2009年)3月(11日~14日)に第一回目を開催した新しい産業見本市で、木造建築と家具に関係した木材(加工)技術(Salonedell'industriadellegnoperl-edilizia eilmobile)に焦点をあてているの

が特徴。主催者はリミニ見本市社(RiminiFieraSpA)。隔年周期(2年に一回)で開催する計画で始まった見本市、第一回目の前回はイタリア国内の企業を中心に140社が実展示面積2万5千d(一小間9Iポ換算で2,778小間)を出展し4日間で世界各地から1万8,156人を動員した。